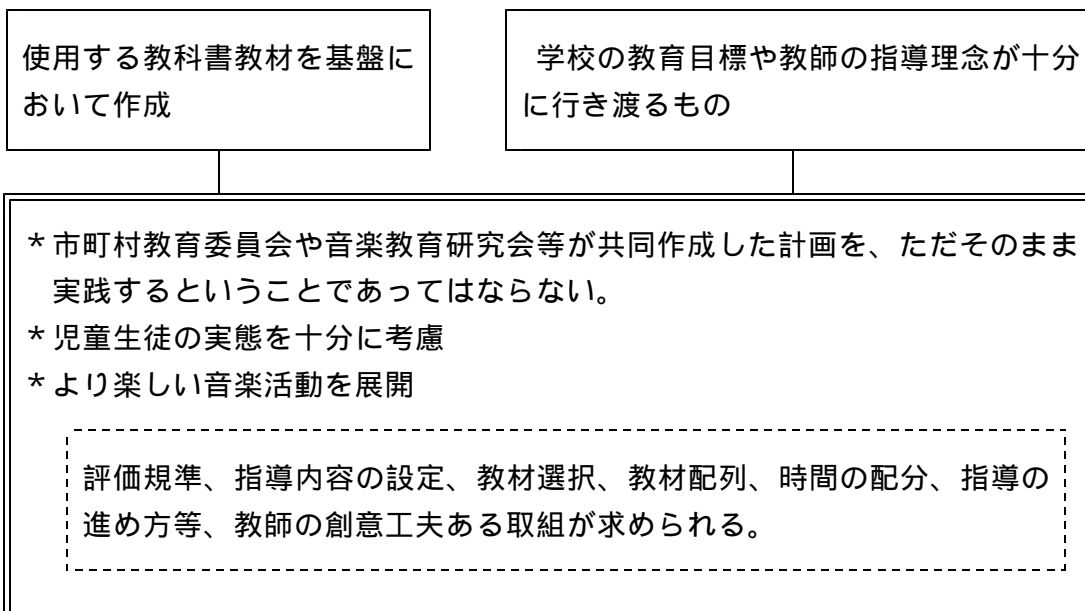


# 音楽科の指導と評価を進める上での課題

## 1 各学校が創意工夫をもって題材の評価規準を作成すること

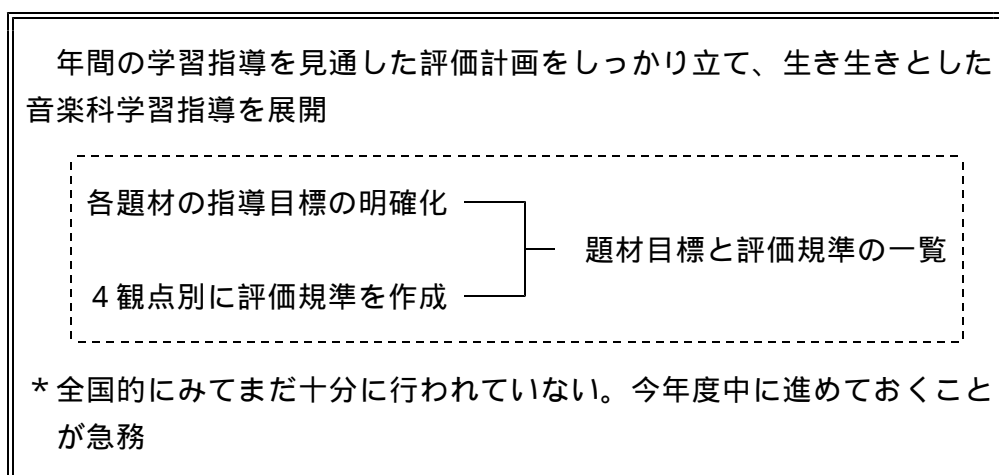
### (1) 各学校が計画する題材の評価規準



年間を見通した評価規準を充実する。

評価の役割

- ・ 児童生徒が指導のねらいを実現している状況を的確に把握し、
- ・ その後の指導に生かしたり
- ・ 児童生徒の学習意欲を引き出したりして
- ・ より主体的で積極的な学習を展開できるようにする。



国立教育政策研究所が示した「参考資料」を参考にして評価計画の充実を図る。  
各題材の目標や学習内容が学習指導要領及びその解説書の内容に照らして設定されていることが重要

- < 内容のまとめりごとの評価規準 >
- ・ 学習指導要領の目標・内容レベル
- < 評価規準の具体例 >
- ・ 学習指導要領解説音楽編の内容解説レベル

## 2 評価規準作成の趣旨を十分に理解し、児童生徒の側に立つ指導と評価を進めることができるようにすること

### (1) 「規準」と「基準」の違いを理解する。

現在の評価における問題点

多くの学校で

- ・ 題材の評価規準を作成すると同時に
- ・ それぞれの評価規準についてさらに「A基準」「B基準」「C基準」を設定して評価
- ・ 従来の評価観と変わらない評価の進め方にとどまっている。



児童生徒の学習において「おおむね満足できる状況」にあるのかをまず判断するのではなく  
最初からA、B、Cの3段階で物差しの判断しようとする評価観

- ・ 学習に対する期待は、A基準として示す文言に置かれる。
- ・ BはAより劣る、Cはさらに劣るという考え方

\* 全ての児童生徒が基礎・基本を確実に習得するような指導と評価の充実を目指した今回の改訂の趣旨から大きくはずれたもの。

評価規準とは

題材の目標を児童生徒がどの程度実現しているのかを把握する評価の窓口。

児童生徒の学習における「おおむね満足できる状況」を示したもの。

Bの範疇を示すもので、Aを含むもの。

評価基準とは

児童生徒の学習における A と B、B と C の境目を意識し、その違いを明確に示そうとするもの。

目標達成に対する物差し的な性格をもったもの。

それぞれの評価規準に A・B・C 基準を設定した評価計画の取組

- ・一人一人の教師にとって大きな負担
- ・学習評価に対する意識が従前と変わらない

\* A でなければ満足しない

\* B である場合学力が劣っているという意識をもってしまう。一人一人に A を求めると、学習に対するストレスを与える。

平成 12 年 12 月の教育課程審議会答申 - 「評価規準」のみ使用。

## (2) 観点別評価を進める上で大切なこと

「おおむね満足できる状況」として示した評価規準（A を含む B）に照らして評価を進める。

児童生徒の学習の状況や結果が、B（おおむね満足できる状況）であることを確認する

C と判断せざるを得ない児童生徒の学習状況にまず意識を向け、少しでも B に近づくよう指導・援助を継続する。

その上で A（十分満足できる状況）に質的に高まったと判断できる点を把握する。

\* B の状況が明確に意識されていれば、A の状況にある姿が自然にみえてくる。

単位時間ごとの評価規準を明確に設定しておくことが必要。

指導計画を作成する段階で A・B・C 基準をあらかじめ設定し、その三者に照らして児童生徒の学習状況を見ようとするだけでは、児童生徒の真の変容や成長は見えにくくなる。